

平成12年度の図書館（昨年度の図書館業務報告）

利用者

年間利用者（入館者）は本館が延べ156,657人、分館が9,735人であり、合計166,392人で、一日平均の利用者は662.9人となった。

また、平成10年度より始めた卒業生の利用制度の登録者は54人であった。さらに、一般市民を対象にして本年度より始めた京都外大図書館市民利用制度は14人が登録して、本学図書館を利用した。

利用状況（レファレンス）

利用者に対し資料活用を支援するレファレンス・サービスについては、事項調査53件、所蔵調査592件、利用指導307件、合計952件であった。

他大学図書館との相互協力

他大学図書館との相互協力は、相互利用（閲覧）、相互貸借、文献複写、外部レファレンス等の業務を併せて、本学から他大学への依頼が564件で、他大学からの申し込みは688件であった。

館外貸出総数

利用者に対する図書館の館外貸出数は、延べ31,527冊（和漢書28,766冊、洋書2,761冊）であった。

利用指導ガイダンス

利用者が図書館を効果的に使うための利用指導ガイダンスは、19件延べ32回開催し、260人の参加があった。内訳は、図書館主催ガイダンスが6件、延べ19回で30人の参加があり、授業内ガイダンスは13件で230人が参加した。

なお、別に新入生全員を対象にした利用指導オリエンテーションを4回に分けて実施した。

資料の増加数

図書館資料の年間増加数は、寄贈図書415冊を含めて8,400冊（和漢書5,764冊、洋書2,636冊）であるが、別途、和漢書539冊の廃棄手続きを行い、蔵書数は458,397冊に達した。

整理数

受入図書館資料の整理数は、7,016冊（和漢書4,987、洋書2,029冊）であった。

カード目録からコンピュータ目録への移行状況

カード目録を館内総合データベースへ移行する所謂、遡及入力とは和書と英語図書を重点にして、合計11,741件を行い、遡及総数は61,028件に達した。

館内総合データベースのデータ蓄積数

館内総合データベースの書誌データ入力数は、新規図書と遡及図書をあわせて18,757件が入力され、蓄積数は265,671件となった。

施設・設備の整備と改善

館内の設備・施設の改善については、第一閲覧室と第二閲覧室の絨毯の敷き替え工事を行った。特に、第二閲覧室の工事に対しては本学後援会から補助金を充当し、この事業を完了した。

また、図書館事務室北側入口の東面にあるコンクリート製旧機械室を改良し、サーバ機を中心としたコンピュータ関連機器を運用する専用室を作った。

コンピュータ・システムの整備

コンピュータ・システムの整備と改善については、平成7年から平成11年の5年にわたって計画的に導入した図書館トータル・システム New Lib の初年度導入分がリースアップを迎える年であったため、ハード機器を中心に初年度導入分のリプレースを行い資料の検索速度や事務処理能力を高めた。また、このリプレースの一環としてデータを蓄積するサーバ機を24時間対応型に切り替えたことから、学外からホームページ上で資料検索が一日中行えるようになった。